



◆生育状況について

1. 長野県果樹試験場 M9 台木生育 ※1991～2020年の平均値

	発芽	展葉	開花	満開	落花
平年	3 / 17	4 / 9	4 / 25	4 / 29	5 / 5
令和7年	3 / 17				
令和6年	3 / 16	4 / 8	4 / 19	4 / 22	4 / 27
令和5年	3 / 12	3 / 24	4 / 11	4 / 12	4 / 23

2. JA管内 ふじ生育

	発芽	展葉	開花	満開	落花
平年	3 / 28	4 / 9	4 / 23	4 / 26	5 / 1
令和6年	4 / 1	4 / 10	4 / 20	4 / 24	4 / 28
令和5年	3 / 22	3 / 31	4 / 12	4 / 17	4 / 22

◆当面する重点作業について

1. 開花時期の品種差が平年と大きく異なることもあるので、人工受粉を行えるように準備しておく。越冬花粉の配布については後日お知らせします。
2. 高密植（新わい化）栽培では、整枝せん定を行う。前回情報参照。
3. せん定後の切り口には、必ず塗布剤を塗布する。
4. 腐らん病対策を徹底する。また、うどんこ病の被害枝除去を行う。
5. メンチュウ（リンゴワタムシ）対策として、主枝・亜主枝等の太枝の背面にある徒長枝の切り株を、ノコギリできれい切り取る。

◆第2回薬剤散布について

1. 散布時期：展葉始め（発芽10日後頃）4月上旬頃 散布日 月 日

散布時期目安は、ふじの花芽から右下図のように、葉が1枚開いたものが2～3芽見えた頃。

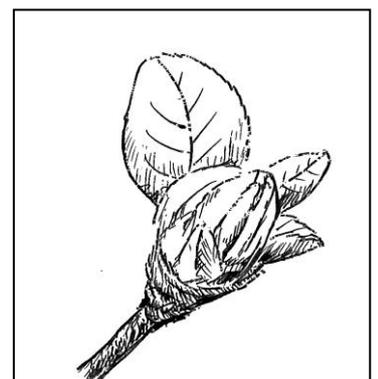
2. 調合量：水1000ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10ml	—	—
コロナフロアブル	250ml	うどんこ病	—
アントラコール顆粒顆粒水和剤	200mg	黒星病	45日

3. 散布量：10a当り＝3500ℓ以上

4. 留意事項

- 1) 黒星病は、降雨と密接な関係にあり、降雨が多く濡れ時間が長いと感染しやすい。薬剤防除は、今回から5月下旬までが特に重要。ここで菌密度を高めてしまうと、以後の感染拡大につながるため注意する。
- 2) 殺菌剤の効果を高めるため、展着剤に代えて、機能性展着剤ドライバ－1,000倍（水1000ℓ当り100ml）を使用してもよい。
- 3) コロナフロアブルに代えて、イオウフロアブル500倍（水1000ℓ当り200ml）を使用してもよい。



4) アントラコール顆粒水和剤に代えて、㊸ベフラン液剤1,000倍(水100ℓ当り100ml)を使用してもよい。

◆特別薬剤散布について

1. 散布時期：第2回から第3回の散布間隔が10日以上空くと予想される場合は、

第2回散布から7日後頃に特別散布する。 散布日 月 日

2. 調合量：水1000ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10ml	—	—
アントラコール顆粒水和剤	200g	黒星病	45日

3. 散布量：10a当り=3500ℓ以上

4. 留意事項

①昨年、黒星病の発生が見えた園、この時期に降雨が多い場合は、必ず実施する。

②殺菌剤の効果を高めるため、展着剤に代えて、機能性展着剤ドライバー1,000倍(水100ℓ当り100ml)を使用してもよい。

◆腐らん病対策について(重要)

腐らん病の発生が目立っています。地域的に蔓延すると大きな被害になることが予想されます。一丸となって対策を徹底し、腐らん病の増加を防ぎましょう。

1. 腐らん病とは

カビ(糸状菌)による病気です。特徴は以下の2つ。

1) 主な感染部位は傷口

自然条件で起きる凍害や風による枝折れのほか、管理作業で発生する摘果や収穫時の果台痕、せん定痕など。

2) 伝搬を担う胞子は一年中飛散

傷ができるせん定後、摘果後、収穫後が主な感

染時期=「重点的な対策が必要な時期」

2. 対策：伝染源の除去

1) 枝腐らんのせん除

枝腐らんは見つけ次第せん除！！。

展葉～開花ころから見つけやすくなります。摘果時にハサミやノコギリを持たない場合は、ビニールひもを持って、しるしをつけましょう。

病原菌は枝の表面よりも内部に広く存在するので、健全な枝や葉そうを複数含めて長めにせん除してください。



2) 胴腐らんの処置

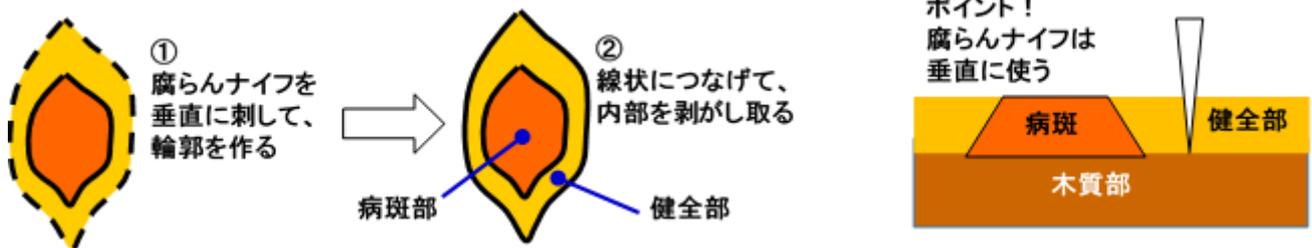
病斑が主幹外周の半分以上に進展している場合は伐採を検討してください。

①削り取る病斑の下にシートを敷き、削り取った病斑を回収できるようにする。

②病斑の周辺を軽く削り、病斑の大きさを確認する（この部分に病原菌が存在）。病斑は表面よりも内部の方が広い範囲に及んでいる。

③削り取りは専用の腐らんナイフ（腐らん削り）がおすすめ。

- ・削り取る輪郭に破線状に腐らんナイフを垂直に挿し、紡錘形にしるしをつける。
- ・しるしを線状につなげると、内側の病斑部を剥がし取ることがきる。



4. ポイント：伝染源除去にあたって

1) 園内の点検

樹体に傷を作る摘果作業の前には、園内の点検を行いましょう。

展葉～開花期は腐らん病が目立ち始める時期です。展葉～開花期、摘果前は一斉点検を実施しましょう。地域で行うと効果的です。

2) せん除した枝、削り取った罹病部の処置【重要】

絶対に園内に放置しないでください。雨にあたるなど、水分があると胞子を形成して飛散させます。

焼却するか土中に埋めてください。なお、法に基づき、

やむを得ず焼却を行う場合は、苦情が出ないように周辺環境に十分配慮してください。すぐに処分できない場合は、シートをかけて雨が当たらないようにしてください。



削り取った病斑も胞子を形成
(黄色い糸状の胞子)

5. ポイント：せん定の順番

休眠期は樹体の防御機能が働かないため無防備です。近年、降雪量が少ない、経営規模の拡大等の理由から、せん定時期が早まっていますが、無防備な期間が長くなり、感染リスクが高まります。また、早いせん定は傷（せん定痕）ができてから春の薬剤散布までの期間が長くなるので、感染リスクが高まります。せん定には次の点に留意しましょう。

1) 他の樹種（もも、ぶどう、なし）がある場合は、りんごのせん定を最後にする。

2) りんご園の中でも、腐らん病の発生がみられる園、多い園のせん定は最後にする。

(引用：長野農業農村支援センター～りんご生産者の皆様へ～)

腐らん病に特効薬はありません。地域一丸となった「伝染源の除去」が重要です。

潜伏期間が長いので、対策の効果を実感できるのは2～3年後です。

地域のりんごを守るため、根気強い「腐らん病対策」をお願いします。

これ以上被害を増やさないために、有効な防除対策の一つである「樹皮の削り取り」動画が作成されています。この動画を参考にいただき、りんご腐らん病の発生軽減・撲滅を目指しましょう。

<https://www.youtube.com/watch?v=9LLtcGQ3Tvc>

又はYouTube チャンネル「長野農業農村支援センター」を検索してください。